



Newsletter No.140 2017.4.24

ronniandpopoki(at)gmail.com

<http://popoki.cruisejapan.com>



4月！ポーポキが住んでいる神戸の桜はとても素敵でした。ポーポキは今、この春に生まれた鳥たちの歌の練習を聞きながらツツジが咲くのを楽しみに待っています。みなさんも、こういった春のお友だちとの出会いを楽しめるといいですね。

Popoki's Hot News!

NEW!

ポーポキのミニ平和映画祭

時:5月13日 14:00~16:00 場所:神戸 YMCA

新しくオープンする会場も見学できます！

参加費:無料 詳しくは本号14ページへ。



灘チャレンジ 2017

今年、灘チャレンジは7月2日に開催されます。

ポーポキは模擬店も展示もします。

お手伝いしてくれる人も歓迎します！

<http://nadachallenge.wixsite.com/nadachallenge>



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのけんちゃん、次の「一言の平和」を送ってくれました。

「僕はグレーや薄い色の様な曖昧さが好きだったけど、今は赤やオレンジの様なはっきりしたのが好きだ。

僕の平和が変わったんだね〜

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki\(at\)gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !



ポーポキ友情物語レポート

プトリニャン

* 2月にポーポキは仲間と一緒に大槌町に行きました。仲間が一人ひとり報告を書きました。2月号、3月号に載っています。今回のプトリニャンの報告が、最後です。

私の大槌のお話

1日目

朝、大槌に着いた。私たちは、元持さんに迎えられ、歓迎されました。そして彼女の事務所に招かれ、わかめと味噌の簡素な朝食をいただいた。程なくして、伊藤さんがやってきて、自作の短編映画を見せてくれました。映画は、大槌に津波が到達したときの様子が映し出され、非常に無残なものでした。そのあと、伊藤さんの車で、大槌の復興の過程を見て回りました。また、仮設商店街で小さなカフェをやっているろにゃんの旧友を訪れました。私は、特に自家製のシフォンケーキを楽しみました。それは、やわらかくて甘く完璧な出来栄でした。ろにゃんは、仮設商店街に訪問し見学できたのは幸運だと言ってくれました。来年、彼らは立ち退きになるからです。



元持さんの事務所に戻り、今度は SHAKE(鮭・しゃけ) HANDという活動をしている女性たちと会いました。そして、サーモンの形をしたドールの装飾の作業に参加しました。とても楽しく、リラックスできる時間でした。切り、縫い、装飾する・・・、仲間たちとおしゃべりしながらしました。

写真は私の 'shake' です。私は、パーティやケーキのような楽しいときを表しました。

午後には、展覧会の準備をしました。場所を選定し、用具を運んだ後、丘の上にある宿泊先に向かいました。

2日目

私たちは、早朝に宿泊先の青少年会館を出て、ポーポキの布のレイアウトを始めました。4匹の子猫（つまり私たち）は、できるだけ買い物客の目を引くような装飾をつくりました。そして、私たちが、装飾を始めてから人々はそれに興味を示し、見始めました。

はじめに、近づいて、ポーポキとお話するように、説得するのはかなり困難でした。私は、やこにゃんが熱心に手伝ってくれたので、嬉しかった。また、そこにいる人がとても印象に残りました。特に、躊躇せずに子どもが布に絵やメッセージを描くのには驚かされました。



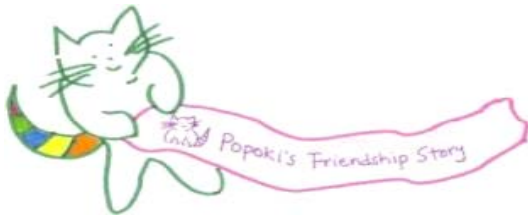
その日は、ポーポキの活動以外にイベントもありました。そのひとつであるご年配のミュージックアンサンブルは、とても美しかった。



3 日目

あくる日の展覧会、訪問者は多くなっていました。神戸大学からの人も訪れました。驚いたことに、ポーポキのお友だちは、大槌でのわたしたちの今までの活動の写真を持ち、また来てくれました。あたかも私に以前会ったかのように、ざっくばらんに接してくれました。あなたが、その場でその光景をみたら、私たちが大槌町の人々から受けたやさしさに対して、どんなに喜んでいたかを知ることができるでしょう。ポーポキと大槌。私は、みなさんのおかげで、たくさんのことを学びました。たとえ、あなたが以前に辛い人生を送っていたとしても、必ず将来が辛いとは限らないのです。





Popoki's Interview

インタビュアー：Reiza - ニャン

インタビュー：大槌町の展示会の参加者

場所：MAST、大槌町

*このインタビューは、大槌町で布にかかれたいくつもの絵についての説明です。

MASTでの展示の2日間で、多くの方が我々のプログラムに積極的に参加してくれました。参加者の年齢、仕事、およびバックグラウンドは多様でしたが、私たちの活動への参加に感謝しています。ポーポキのメンバーに3人のインドネシア人留学生が参加しました。彼らの日本語能力はコミュニケーションに十分ではありませんでした。だから最初は、お買い物客の人たちを日本語でこの活動に参加してもらうように呼びかけることが、とても困難でした。しかし、私たちのこのプログラムは、最終的には成功に終わったと言えるでしょう。参加者が絵やメッセージを書いている間、ポーポキのメンバーは、彼らの話を聞いたり、被災経験について教えてもらったり、あるいは絵を説明してもらったりして、いろいろな話を聞くことができました。



ポーポキの布に絵を描いた人の大多数は5歳～10歳ぐらいの子どもでした。彼らの描く能力、インスピレーション、および創造性は壮大です。最初に描いてくれたのは、小さな男の子です。彼は鳥居とおみこしを詳細に描きました。素敵な絵でした。



また、小さな女の子が彼女の妹と一緒に描きました。しかし、この妹はただ座って、なにも描かないでマーカーを握っていただけです。姉や家族は描くように促していたけれど、彼女は沈黙を守っていました。



家族全員で描いた絵もありました。たとえば、この絵は母と娘によって描かれました。娘の絵はトイレと犬を表しています。二本のやしの木は、震災のときに大槌町でボランティアをしていた夫婦で、現在大槌町の近くに住んでいます。





大槌町の町長も参加し、ポーポキの布にメッセージを書いてくれました。彼は、私たちが大槌町の人々のために行っている活動に感謝を伝えてくれました。



珍しいことに布に何人かのティーンエイジャーが描いてくれました。彼らは自分の好きなもの描きました。そして、2011年の津波や地震の被災体験を聞かせてくれる人もいました。

大槌活動報告会 2017

やこにゃん

2017年4月7日金曜日、神戸学生青年センターにて、大槌活動報告会 2017 が行われました。

初めに、ろにゃんにポーポキ友情物語について説明をしていただきました。また、大槌にいるもちにゃんからメッセージをいただきました。それから、大槌町の震災の様子のビデオをみんなで見ました。次に、さとにゃんに震災についてのおはなしをしてもらいました。参加者に震災の経験をたずねると、チェコの洪水やインドネシアの地震の話聞くことができました。それから、今回の大槌でのポーポキ友情物語の活動に初めて参加したスイウィニャン、プトリニャン、レイザニャン、やこにゃんがそれぞれ感じたことや体験したことを述べました。また、去年参加したきよにゃんもお話をしてくれました。



後半は、「自分の住んでいる場所で震災に遭うのはどういうことか」について、15名の参加者が二つのグループに分かれて話し合いました。その後、4人にそれぞれのグループの話を代表してまとめてもらい、ディスカッションの内容をみんなで共有しました。最後にろにゃんが震災のこととポーポキの活動についての思いを述べました。

ポーポキは静かにみんなのそばに座っています。

さみしいとき、悲しいときに、だれかがそばにいてくれたらいいな。

それが、ポーポキの活動の原点です。



つらい経験をしていただれかにずっとよりそい続けることを、静かに誠実に行っているポーポキの活動はかけがえのないものだと感じました。

今回参加して、私はポーポキの活動が本当に多くの方に支えられていただいていることを改めて実感しました。ポーポキの活動をご支援していただいるみなさま、本当にありがとうございます。

また、このたびの報告会では、通訳のほずにゃんや大槌を訪れた先輩にゃんのきよにゃん、もりにゃん、すぎんかにゃん、ありばんにゃんにたくさん助けてもらい、無事に会を終えることができました。

ありがとうございました。

ポーポキ友情物語の活動がこれからもずっとずっと続いていきますように。





ポーポキ友情物語 in 城西新聞

城西高等学校 2年 高田大地
中村太海
長澤昂汰

*先日、城西高校の新聞部の取材を受けました！ステキな記事、ありがとうございました！これからもよろしくね！

言葉にできない思い 絵で表現
心の支援
小見出し
寄り添い続ける大切さ
広がるポーポキの輪

東日本大震災から6年が過ぎた。「絵」を通して被災した人々に寄り添う活動取材した。神戸大学大学院国際協力研究科の教授であるロニー・アレキサンダーさんが始めた「ポーポキ・ピース・プロジェクト」、東日本大震災を受けて2011年から始まった「ポーポキ友情物語」の活動について話を伺った。

「ポーポキ・ピース・プロジェクト」は今年で11年目を迎える。ロニーさんが15年飼っていた（飼われていた）猫のポーポギの目線で、ロニーさんの平和に関する素朴な疑問をスケッチブックにかいた絵本がきっかけで2006年に始まった。現在、下は小学生から上は70代まで国籍、職業、年齢問わずさまざまな人々がポーポキに関わっている。そのほとんどが偶然ポーポキの活動に触れ、メンバーになった人たちで、さまざまな角度から平和を考えるイベントも開催している。

「ポーポキ友情物語」プロジェクトは、東日本大震災から始まったポーポキの活動の一つで、被災地など各地を回り、絵で交流するものだ。活動内容はシンプルで幅45cm、長さ5mの布に「自由に絵を描く」ことだ。この活動は「絵を描く」という手段を使ってそれぞれの体験「物語」を共有し、友情を深めることを目的としている。

なぜ絵という手段を選んだのだろうか。ロニーさんによると「人間本当に悲しいこと、つらいことはうまく言葉にできないもの。でも、絵ならそれがうまく表現できる」という。宮城県仙台市で出会ったある女子高校生は、4匹の猫の絵を描き、「猫たちは津波に連れ去られてもういない」と話してくれた。彼女は布を展示すればまた猫たちに会えると喜んでいたので。また、「津波のバカ、じしんのバカ」と書いた人や、家を失い、新たに家を建てる宣言をする人など子どもから大人まで多くの人が自分の素直な思いを布の上で表現した。布はこれまでに40枚以上集まっており、各地で展示会が開かれている。

この活動は東日本大震災以降6年間続いており、現在も継続中だ。ロニーさんは活動を一度きりでやめず、続けていくことが重要だという。「ポーポキではマニュアルは一切なく、『信念』と『状況』で動いている。震災の傷は一人一人違うから、一人一人に寄り添い続けることが大事です」と話す。今でもポーポキのメンバーは被災地を訪れ、現地でできた友達と交流を続けている。被災地の人々からは「6年も忘れず来てくれてうれしい」と感謝の言葉をかけられたという。

一方で、活動を継続するための資金確保が難しいという悩みもある。ポーポキの活動の財源はポーポキの本やオリジナルTシャツの収益、神戸大学の助成金などだ。だが、ポーポキのような「心の支援」を行う団体が助成金をもらうのは難しいそうだ。「なぜ絵を描く活動をしているのか」、「どうして6年も続けているのか」と理解されにくいという。ロニーさんは「ありのままの自分でいられる場所がある大切さ」、「寄り添い続けることの大切さ」を被災地以外の人にも理解してほしいと話す。

阪神・淡路大震災の被害を受けた地域に生まれながら震災を経験していない世代の城西生は、震災、防災に対してどのように取り組めばいいのだろうか。ロニーさんは「震災を知らないこと、経験者と防災に対する意識が違うことは当たり前。まずは自分の命を守り、生きることが大切。もし余裕があったら人から『ありがとう』と言われるようなことをしてください」と語った。

自然災害が多い日本では、さまざまな団体が被災地を回り、被災した人々の心身のケアを行っている。今回、取材したポーポキの活動はその1つである。私たちが城西生としてどのようなことができるのか考えることが大切ではないだろうか。

(2年 中村太海)

2年 高田大地

中村太海

長澤昂汰

「城西新聞」2017. 3. 23

ポーポキ友情物語 言葉にできない思い 絵で表現 心の支援

東日本大震災から6年が過ぎた。「絵」を通して被災した人々に寄り添う活動を取材した。神戸大学大学院国際協力研究科の教授であるロニー・アレキサンダーさんが始めた「ポーポキ・ピース・プロジェクト」、東日本大震災を受けて2011年から始まった「ポーポキ友情物語」の活動について話を伺った。

「ポーポキ・ピース・プロジェクト」は今年で11年目を迎える。ロニーさんが15年飼っていた（飼われていた）猫のポーポキの目線で、ロニーさんの平和に関する素朴な疑問をスケッチブックにかいた絵本がきっかけで2006年に始まった。現在、下は小学生から上は70代まで、国籍、職業、年齢問わずさまざまな人々がポーポキに関わっている。そのほとんどが偶然ポーポキの活動に触れ、メンバーになった人たちで、さまざまな角度から平和を考えるイベントも開催している。

寄り添い続ける大切さ

「ポーポキ友情物語」プロジェクトは、東日本大震災から始まったポーポキの活動の一つで、被災地など各地を回り、被災者と交流するものだ。活動内容はシンプルで長さ50cm、幅45cmの布に「自由に絵を描く」という活動。この活動は「絵を描く」という手段を使ってそれぞれの体験「物語」を共有し、



女子高校生が描いた4匹の猫

友情を深めることを目的としている。なぜ絵という手段を選んだのだろうか。ロニーさんによると一人間本当に悲しいこと、つらいこと、はうまく言葉にできないもの。でも、絵ならそれがうまく表現できる」という。宮城県仙台市で出会ったある女子高校生は、4匹の猫の絵を描き、「猫たちは津波に連れ去られてもういない」と話してくれた。彼女は布を展示すればまた猫たちに会えると喜んでいたり。また、「津波のバカ、じしんのバカ」と書いた人や、家を失い、新たに家を建てる宣言をする人など自分の素直な思いを布の上で表現した。布はこれまでに40枚以上集まっており、各地で展示会が開かれている。



取材を受けるロニーさん

この活動は東日本大震災以降6年間続いており、現在も継続中だ。ロニーさんは活動を一度きりでやめず、続けていくことが重要だという。「ポーポキではマニュアルは一切なく、「信念」と「状況」で動いている。震災の傷はひとりひとり違うから、ひとりひとりに寄り添い続けることが大事です」と話す。今でもポーポキのメンバーは被災地を訪れ、現地ですべて友達と交流を続けている。被災地の人々からは「6年も忘れず来てくれてうれしい」と感謝の言葉をかけられたという。

広がるポーポキの輪

「なぜ絵を描く活動をしているのか」、「どうして6年も続けているのか」と理解されにくいという。ロニーさんは「ありのままの自分でいられる場所がある大切さ」、「寄り添い続けることの大切さ」を被災地以外の人にも理解してほしいと話す。

阪神・淡路大震災の被害を受けた地域に生まれながら震災を経験して

「自然災害が多い日本では、さまざまな団体が被災地を回り、被災した人々の心身のケアを行っている。今回、取材したポーポキの活動はその1つである。私たちが城西生としてどのようなことができるのか考えることが大切ではないだろうか。」

(2年 中村大海)
2年 高田大地
中村大海
長澤昂汰



「ポーポキ友情物語」活動の様子と絵が収められた本

ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 107

今月のテーマは、足のストレッチ！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
2. 最初は、あぐらをかいて座りましょう。ひざをまげて、足の裏を合わせます。そのままでもストレッチになりますが、チャレンジがしたい人は、前へかがんでみましょう。
3. 次は、立ってスクワット！ひざをまげたまま、1から10まで数えましょう！
4. 今度は、膝を伸ばして、頭を足首につけてみましょう。尻尾は上へ伸ばす。
5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？



次回のポー会：5月13日 16:30～ 神戸YMCAでの映画祭のあと！！

- 5月13日 ポーポキミニ平和映画祭 神戸YMCA/神戸YWCAと一緒に！
 - ◇ 場所は神戸YMCAの新しい会館！この日は会館のオープンハウスです！14:00～16:00
 - ◇ (詳しくは次ページをご参照)。
- 5月27日 ポーポキ at 畿央大学
- 7月2日 ポーポキ at 灘チャレンジ！今年も模擬店&展示！
 - ◇ 大槌町からのスペシャルゲストは川原畑洋子さん！SHAKE HAND活動もします！
- 7月15日 ポーポキ at 子どもの里！
- 8月6日 ヒロシマディースカイプ(予定)

ポーポキの友だちから

東日本大震災避難者の会Thanks and Dream編 「3.11避難者の声～当事者自身がアーカイブ～」
(2017.3. 11) 問い合わせ先：東日本大震災避難者の会 Thanks and Dream、sandori2014@gmail.com

ポーポキと一緒に平和を創り出す集会 ～ポーポキのミニ平和映画祭 その6～ 「春に「核」を考えよう(仮)～」

2002年度から不定期に開催している「平和を創り出す集会」では、事実をできるだけ正確に知り、市民の視点から、平和を創り出すために私たちに何ができるのか、ともに考え語り合い、行動の糸口を探すひとときを持ってきました。



平和ってなに？平和ってどんな形？
映像で「平和」を表現することは可能？
一緒に「平和」を考えてみませんか？
ポーポキも参加するんだよ！



今回も、映画&トークセッションを企画しました。好きな時間帯に参加して、好きな作品を観て、おやつでも食べながら、作品について話し合ってみよう。

日時： 2017年5月13日(土) 14:00～16:00
場所： 神戸YMCA 新会館！
神戸市中央区加納町2丁目7-11
国際奉仕センター (TEL: 078-241-7204)

参加費： 無料 (YWCA・YMCA 国際協力募金活動にご協力願います)
主催：ポーポキ・ピース・プロジェクト、神戸YMCA 国際委員会、神戸YWCA

テーマ：核と平和を考える季節は夏だけ？春にも考えましょう！

プログラム

*具体的な内容は当日まで発表しません！お楽しみに！

- 14:00 ごあいさつ
- 14:05 「はだしのゲンのメッセージ」(32分)
- 14:40 休憩・ディスカッション
- 15:00 核兵器・原発に抵抗すること(動画)
- 15:20 ディスカッション・共有・ふりかえり
- 16:00 閉会

お問い合わせ・お申し込み
ポーポキ・ピース・プロジェクト
ronniandpopoki@gmail.com
又は
神戸YMCA国際・奉仕センター(担当:中道)
〒655-0001 神戸市中央区加納町2-7-11
TEL (078) 241-7204
e-mail houshi@kobeymca.org



Popoki in Print

ポーポキ通信のバックナンバー : <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

ESD Digital Archives, Kansai Council of Organizations for International Exchange
<http://www.interpeople.or.jp>

- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』
2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.”
International Feminist Journal of Politics. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日 [子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae?
Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011,
p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E.,
ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 「『ポーポキ、平和って、なにに色?』の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる!」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え]
http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social
Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なにに色?ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日
本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポー
ポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なにに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情
って、なにに色?ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなにに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなにに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。
ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会 『世界人権宣言』 ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10
500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8
(アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」 Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」 2008.10.8. 10





私にとってのポーポキ

有パンにゃん

先月、小学校の先生になってはじめて、自分が担任になった子どもが卒業していきました。嬉しい気持ちが半分…不安な気持ちが半分…。それは、自分の仕事に対して、子どもたちにいろいろ教えることができた！という気持ちもあれば、もうちょっといろいろ教えたかった…という気持ちもあるからです。

私の働く学校は少し特別で、子どもたちはみんな近くの児童養護施設というところに住んでいます。児童養護施設というのは、いろいろな理由があって、親と一緒に暮らせない子どもたちが生活している場所です。私の学校の子どもの場合は、ほとんどが暴力、あるいは育児放棄による虐待が理由で、その施設に住んでいます。そんな子どもたちですが、普段は本当に元気！いっぱい遊んで、いっぱい食べて、街の中で見る子どもたちと何1つ変わったところがないように見えます。でも、よく見ると…ある子どもはかたよった食事しかとってこなかったから少し太り気味だったり…、ある子どもは前まで学校に通っていなかったから勉強が苦手だったり…。今までの生活環境が、いろいろな面で子どもたちに影響を与えています。

どんなに家の状況が悪くても、ほとんどの子どもたちは家に帰りたいて気持ちを持っているから、見えない自分の将来のことを考えて、気持ちが浮き沈みしていることもよくあります。そんな子どもたちに居場所をつくり、「うちの学校に来てよかった」って思ってもらえるような環境をつくりたい。そんな思いを抱いて、赴任してからのこの2年間はがんばってきました。でも、それはやっぱり難しい…。家や親の代わりってやっぱりないのかなあ、と思わされます。さらには、子どもたちをたくましく成長させ、生活を変えられる力を身につけさせることも難しい…。教科書の内容を教えるだけでも大変です、先月卒業した子どもたちには、結局何かしてあげられたのかなあ…

そんなことを考えている間に、新しい学期も始まってしまいました。悩むよりまずは、目の前のことに集中しなくてははいけませんね。ポーポキ、とりあえず今年も子どもたちが平和でいられるようがんばるね。



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「ご一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>



郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!